

平成25年度 すぎなみ大人塾土曜コース

土曜の朝は、哲学しよう！ 自分の生き方を共に探る場づくり学

第1回：「哲学する対話！自分への違和感から対話が始まる」

学習支援者：広石拓司（株）エンパブリック代表取締役

2013年5月25日(土曜日)午前10時から12時30分

於：セッション杉並

杉並区社会教育センター 松坂

すぎなみ大人塾にご参加いただきありがとうございます。説明役の松坂と申します。どうぞ宜しくお願いします。すぎなみ大人塾土曜コース、パーソナルデザインコース、「土曜の朝は、哲学しよう！ 自分の生き方を共に探る場づくり学」ということで、土曜の朝から哲学を学んでいきます。朝から哲学ということ、いったい何人が集まるか不安を持っていましたが、定員30名のところ倍近い人数の応募がございました。厳正なる抽選の結果、皆さんにお集まりいただきました。なかなか土曜の朝に勉強をすることはないですね。そういった意味でも、朝から1日を有意義に使って頂けたらと思います。全9回のコースです。最後まで参加して頂けたら幸いです。注意事項といたしましては、今日のレジュメにアンケートをつけております。その日の講座に関する感想や、事務局や講師に対しての要望などを書いていただくものです。運営等に反映させていただきますので、どうぞご記入のうえ、お渡してください。新聞は、大人塾の様子をまとめたものです。先日、地域大学と協働で齋藤孝先生をお招きして講演会を開きました。講座の内容を抜粋して記載しております。この新聞は各回に発行しておりますので、欠席されたときにはご参考にしてください。写真などを撮りますが、これは新聞に掲載したり、資料として残すこととなりますが、もし写真を撮られたくない方はその旨をお知らせください。これから、すぎなみ大人塾土曜コースを開講いたします。まずは、大人塾について社会教育主事の中曽根から説明いたします。

杉並区教育委員会社会教育主事 中曽根

社会教育センターで行ってきた、すぎなみ大人塾は今年で9年目に入りました。昨年受講された方もいらっしゃいますが、ほぼ毎年新しい方にご参加頂いております。卒業生は500名を超え、街の中で出会って、大人塾の卒業生同士で繋がりが深まったという話も聞いております。みなさんも、すぎなみ大人塾に参加したことをお話し頂くと、意外な仲間や友人が増えるかもしれません。社会教育センターが主催しておりますが、教育というと学校教育を思い出すでしょう。

勉強したくないことを先生に教えられる、テストを受けさせられたなど、教育というと硬くて、押しつけのようなイメージをお持ちの方も多いと思います。社会教育と学校教育というのは、車の両輪といわれています。社会教育は、学校を終えた方が学ぶ機会であったり、放課後に子どもたちが学ぶことを指しております。社会教育での学びの方法は、学校教育とは全く異なり、社会教育の「社」に「酒」を置いて酒会教育と呼んだり、「社」の代わりに「茶」を置いて茶会教育と呼ぶ方もいます。これは、昼間なので呑みにいくことはありませんが、お茶をしながらお互いに話しあい学んでいくなど、用意されたプログラム以外の学びの場を作っていくことです。私たちが決めたプログラムと、それ以外のプログラムがまじりあったところで、自分から学んでいく場所なのです。学びと生活は繰り返すものです。学んだことを生活の場で実践するかもしれませんが、生活の中で気づきがあるかもしれません。その気づきを、またみんなで学びのために使ってみたりと、学びと生活が循環しているのが社会教育の特色です。ですから、社会教育の主役はみなさんお一人お一人です。ここには先生という言葉は使わないで、学習支援者という言葉を使っています。学習を支援する立場です。私たち社会教育センターの職員は、相談を受ける立場です。お気軽にお声をかけてください。今回は、参加希望者が多く、40代の方が最も多かったです。次に30代と50代が多かったので、40代を頂点とした山型の参加分布です。参加動機はいろいろあると思います。「土曜の朝」「哲学」「自分の生き方」「共に探る」「場づくり」とタイトルの中に5つの要素がありますね。みなさんは、時間のある土曜の朝だから参加された方もいらっしゃるかもしれませんが、共に探ることを期待している方もいらっしゃるでしょう。いろんな応募動機を持った方が、話しあい、学びあって、次の時代の新しい価値を作っていくのではと、期待をしております。ちょっと聞いてみたいのですが、5つのタイトルの中でみなさんの参加の動機になったところを教えてください。2回だけ挙手してくださいね。まずは、「土曜の朝」だったから参加された方は、挙手してください。それでは、「哲学」という言葉に惹かれた方は？「自分の生き方」を見つめてみたいと思った方は？「共に探る」こと、区内のいろいろな人と関わりあうことに興味を持った方は？「場づくり」ということで、実際に何かを作ろうという方は？このような多様性のある理由で集まった人が学ぶのが面白いことです。今回、学習支援者をお願いしたのは広石さんです。対話を作る会社として新聞にも載っていましたね。9回というと長いようで短いです。1回を大切に参加して頂けたら幸いです。宜しく願いいたします。

杉並区社会教育センター 松坂

では、スタッフの紹介をいたします。まずは、学習支援者の広石さんです。プロフィール

ルは資料をご参考にしてください。

学習支援者 広石

エンパブリックという会社をしております広石です。大人塾は昨年も担当しまして、「はじめてのソーシャルアクション」ということで、地域デビューするためにワークショップを受講者が自ら行う1年間の講座を実施していました。今年は、1年は長いかも相談をして、半年でやってみようと考えました。その時、浮かんだのは哲学です。自分たちで考える場を作るというのは良いと思いスタートしました。先ほどもお話がありましたが、私は講師というよりは学習支援者です。みなさんが学んでいくのをサポートする役割だと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

杉並区社会教育センター 松坂

学習支援サポーターということで、船之川さん、川上さん、中川さんをお願いしています。日替わりで参加して頂きます。続きまして事務局ですが、その前に部長からご挨拶いたします。

杉並区教育委員会 生涯学習スポーツ担当部長 本橋

みなさま、おはようございます。私も永福町に住んでおりまして、どんな様子かと思い、参加いたしました。40代が中心ということですが、世代が異なる人が集まるのは珍しい機会かと思えます。どうか9回、有意義にすごして頂けたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

杉並区社会教育センター 松坂

ありがとうございます。それでは、事務局の紹介をいたします。

杉並区教育委員会社会教育主事 中曽根

中曽根です。宜しくお願いいたします。

杉並区社会教育センター 湊

土曜コースを担当しております湊です。毎回、顔をだしますので覚えて頂けたらと思います。宜しくお願いいたします。

杉並区社会教育センター 松坂

若い2名は、月曜コースを担当しております坂本と梶山です。最後に、私は土曜コースを担当しております松坂と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。それでは、広石さんにガイダンスをお願いいいたします。

学習支援者 広石

どうぞよろしくお願いいいたします。先ほど申し上げた通り、タイトルは「土曜の朝は哲学をしよう」です。哲学を知るといよりは、哲学をすることに重きを置いています。考えていくプロセスの中で、対話を使って一緒に何かをできたら良いなと思っています。簡単なガイダンスの後は、自己紹介をしていただきます。そのあと、試しに哲学する対話をやってもらいます。コースの全体像が伝われば幸いです。

哲学をしようということで、哲学っぽいものを表紙にいたしました。ラファエロのアテナイの学堂という絵で、これがアリストテレスで、これがプラトン。他にもパルメニデス、ヘラクレイトスなどギリシャ哲学者が集まっている図です。名前や用語は、なんとなく覚えて頂くので大丈夫です。用語を詳しく知っているのと哲学できるのは関係がありません。ただ、用語を知っていると、哲学の感覚を育てることになります。ギリシャ時代から、やがてキリスト教の時代に入ります。キリスト教の中に真実を考え、答えは神にあるのではないかと考えるようになりました。ルネッサンス期になると、神も良いけれど、人間にも答えがあるという文化になります。この絵のモデルとなっている人物たちは、ルネッサンス期に活躍している人たちなんです。ギリシャ時代の哲学者に当てはめて、当時の現在の人を絵にしています。いまこそギリシャ時代のような考えの息吹を呼び起こそうというテーマです。

哲学者が何を考えていたかを知識で得るだけではなく、プラトンはこんなことを疑問に思ったのかと考えてみる。図の中でプラトンは天上を指して、アリストテレスは地面を指しています。アリストテレスは現実の世界のことを一生懸命考える。プラトンは国とは何か、よりよく生きるにはどうしたら良いのか、善とは何かを考えていました。そういう人は、周りにもいますよね。



これからのコースで、いろいろなことがヒントになるかもしれませんが、いろいろな情報が入ってくるかもしれませんが、皆さんの感性を大事にしてほしいと思っています。みなさん自身が感じるものがスタートになると思います。

ただ、考えるといっても、自分で考えるだけではうまくいかないときもあります。対話や場づくりが、そういう時に役に立つかもしれません。

エンパブリックで、会社のテーマを話し合った中で、「正解の無い問いを共に生きる」というキーワードがでました。これまでは、なにか正解を前提にしていた社会です。国というのはこうあるべき、会社というのは、こうあるべきと、何か答えと

いうのがあったのかもしれません。1つ正しい答えがあって、その通り生きている人がいて、その答えに合わない人は別の生き方をしていました。でも、たいていの人々が答え通りの生き方をしているメジャーとなって、そうじゃない人はマイナーという扱いになっています。やがて、国のため、会社のために生きるのは変だと、自分のために生きるという考えができました。

昔は、会社がこれを使ってくださいと売っていた時代から、お客様が欲しいものを作る時代になりました。答えが、「私」になってきたのです。ただし、それも、だんだん変わってきています。欲しいものが何かわかっている人も少ないですね。企業から、これが正しいライフスタイルと提案されても違和感を覚えます。何が正解なのか良くわからない時代になっています。だからこそ、一緒に考える時代なのです。

どこかに答えのある時代であれば、知識を得て、答えを探しにいけば良かったのですが、今は違います。しかし、答えがない時代なので、一緒に考えないとなりません。福



島の方は、どうやって生きて良いのかを考えると、答えはないですね。地元に残りたい人もいますし、出ていきたい人もいます。答えがないからこそ、一緒に考えないといけない。母親が子育てに苦労している。ならば、行政が保育園を作るべきだ、となりがちです。しかし、保育園を作ることだけが答えなのでしょうか。箱を作らずとも、子どもの預合いの仕組みをつくる方がいいかもしれません。何が正しいかよくわからないのです。こんな時代だから、一緒に考えるための場を作ったり、考えるだけで終わらずに、どうやって実践していくのか。そういったことを行うプログラムを作ったり、解決に動き出す社会起業家の育ちを応援しようというのが、エンパブリックの仕事です。

さて、これ(図の左から2番目)は何色でしょう。もっと黒と比べたら、こっちはややグレーに見えるかもしれません。グレーというのは、白にスゴク近い黒、すごく薄い白など見え方は様々です。

覚えて頂きたいのは、自分がどこにいるのかということです。そして、自分がどこにいるのか、どう見えているのかは、他人と話さないとわからないのです。

自分は何が好きなのか、どう考えているのか、実は他の人たちと話し合っただけで、わかってきます。自分らしさ、自分のやりかた、考え方の発見になります。何かを固定してしまうのではなく、この機会を通して、自分自身の考え方や行動のプロセスを発見して頂きたいなと思います。色の名前がついていれば、白黒ハッキリするかもしれませんが、でも、色の名前もたくさんありますし、名前をどう考えるかによって見え方も変わってきます。こういうことをみなさんに考えて頂きたいのです。

正しい主張があれば、別の正しい主張もあります。「国民は国のために働くべき」というのは、正しい主張です。一方、「個人は自分のために働く」のも、正しい主張です。「母親は子育てを優先すべき」というのも正しいですし、「女性は自己実現をしなくては」というのも正しい主張です。今の社会というのは、正しい主張がたくさんあるのです。その正しい主張の中で、不安定に自分はこの辺りかなと漂っている状態です。このコースでは、その理由を自分なりに支えられたり、自分はここにも良いんだな、こう考えて良いんだなと発見するプロセスになればと思います。

今回参加されている方には哲学に詳しい方、まったく知らない方がいらっしゃると思います。それぞれ知っていることを互いに出すことで、気づきがあるはずです。哲学を知らない人は、哲学の本に興味があくかもしれませんし、哲学を知らない方からの質問は哲学を知る人にとっては学びになると思います。何が正しいというよりは、何が自分にとって良いのか。それを一緒に探っていく場にしていきましょう。

さて、リオタールという人は、ポストモダンという本を書きました。近代というのは、終焉に向かっていて、次の時代が来ていると考えました。人は神話に頼ったり、聖書に頼ったりする時代もありましたし、科学に頼る考え方、資本主義や社会主義に頼る考えもありました。それを達成すると幸せになるということがたくさん言われてきました。しかし、今の時代というのは何か1つで達成するのは難しいです。唯一の答えに向かっていく時代ではないと思います。

僕自身は社会起業家の支援をしている中でリオタールの言葉にたどり着きました。誰もが自分は、社会のなかで小さな存在でしかないことを知っている。しかし、どれほど小さな存在であっても、コミュニケーションの回路の結び目にいると言っています。これはどういうことかと言うと、小さな存在であっても、誰かの話を聞いたり、誰かの話を伝えたり、他の人の考えを学んだり、自分の考えを伝えたり出来る。そういう自分を受け止めて、自分から話を伝えていく。何か自分の考えを誰かに伝え、聞いた人が少し動くかもしれない。また、これが波及して、また一歩進むかもしれない。こうして社会が変わっていくと考えたのです。昔は、何かをすべきだという時代で、原理原則が決まっていた、それに向かっていきました。ところが、今は自分自身で情報を受け止めて、情報を発信していく。そして聞いた人が動いていく。この連鎖が、社会を変えていくのではないかとリオタールは考えたのです。

哲学というと、すごく抽象的で、あんまり現実社会と結びつかないのではと思うかもしれませんが、ただ、哲学者の意見を読んで、こうした考えを自分なりに考え、これが社会起業家の役割なんだと伝えてきました。みなさんも対話を通して、自分にとってヒントになった、気づいたことが、生きていく中で軸になったり、困った時のヒントになるのではと思います。



解けない問いというのがたくさんある社会です。1つの視点からだけでは追いつかないし、固定化してしまいます。「人類は愛に向かって生きていく」と考えると、だんだん過去もそのように見えてきます。子どもの時から内気だったから、自分を内気と考えるとします。でも、自分はこうなんだと決めつけてしまうと、過去もそう見えてしまうのです。内気なんだけど、他人に向かって話して成功したとか、プレゼンでうまくいったこともあったはずです。自分は、きっとこうなんだと決めつけてしまうと、全部がそう見えてしまいます。もっと自分は流動的で、オープンなのではないでしょうか。

自分を固定してしまうのも、その場その場で生きていくのも違うのかもしれない。その両方に行かないで、自分を生きていくのもテーマの1つだと思います。新しい問いが生まれることが、哲学の連続だと思います。いままでいろんな哲学者が考えてきましたし、答えもでてきました。みなさんには、今の時代にしかない新しい問いに対して、考えて欲しいですし、昔から問われてきたことに対して今の時代に当てはめて考えてみたりしてほしいです。現代からみると、よりわかりやすくなることもあるでしょう。もしかしたら、みなさんが新しい問いかけを生み出すかもしれません。

答えを出すより、問いかけを生み出す方が重要なのではと考えています。そのために、ぜひ他人と出会って欲しいです。ぜひ対話をして欲しいなと思っています。他の人に出会って、「え!？」と不思議に思ったり、どうしてそう考えるのかなと疑問に思ったり、そんなことを互いに話す場になれば良いですね。設定された自分に縛られるのではなく、出会いと対話を通して、みなさん自身が新しい問いかけや自分なりの答えを見つけて頂けたらと思います。

コースの流れですが、初回は哲学をするキッカケを提供できたらと思います。2回目は、ちょっとした疑問から哲学が始まることを体験してもらいます。たとえば、初音ミクというコンピューターが歌を歌うコンサートがあって、みんなが熱狂しています。これをバカバカしいと思う人もいれば、スゴイなと思う人もいるのです。コンピューターにプログラムされた歌をライブで聞くというのは、どういうことなのかなとか、人が集まるというのはどういうことなのか、感動するというのはどういうことなのか、疑問を持っていると、こうして考えも広がっていきます。

疑問を持つ姿勢が、何かを考えるキッカケになるのです。日常生活は忙しいので、問う時間はないのですよね。でも、土曜の朝だけは、自分の中の問いを誰かに話して、考えていきたいです。問いを考える機会です。

それから、対話ということが必要になってきます。他の人の意見を聞いて、自分の意見をもういちど考える。対話の中で、ファシリテーションという言葉があります。場を作るという意味ですが、対話の場づくりの注意点や意見の違いが喧嘩にならないようにするにはどうしたら良いのかななどを学んでいきます。

7月は、実際にみなさんにやって頂きます。練習試合ですね。改めて問いかけたい問い、こんなことを考えたいなというのが見えてくると思います。対話のやり方を学んで、実際に話してみて、自分はこういうことを問いかけたいんだと気づいてもらいます。さらに9月は、一般の区民の方を対象に対話の場をやってみて欲しいです。大人塾のメンバーで話すのも大事ですが、他の人を交えて、杉並区のいろんな人を招いて、「自分はこういうことを考えたい」というのを問いかけて欲しいのです。明快な答えがでるとは思えません。でも、何か得るものはあるでしょうし、まだわからないことが分かるかもしれません。このように、全9回のプログラムとなります。ですので、ぜひみなさんが楽しんで、学んでもらえたらと思います。

ここの講座の中で終わるのではなく、終わった後も職場や日常で30分から1時間でも、一緒に考える場を作れるようになれば、周りの人に伝わっていくと思います。みなさんが実践してきたことが、社会の幅を広げるようになるはずです。そんなキッカケになれば幸いです。講師ではないので、一緒に作っていきたいです。みなさんが考えるヒントとお手伝いをしていきます。

哲学的思考への導入	5月25日	哲学する対話！自分への違和感から対話が始まる
	6月8日	哲学する問いをつくりだす方法
	6月22日	対話の基礎 ファシリテーションを学ぶ
対話体験	7月6日	哲学する対話をやってみる(1)
	7月20日	哲学する対話をやってみる(2)

対話を仕掛ける	8月3日	哲学 対話のお題を考える
	8月31日	哲学 対話の準備をする
	9月7日	「実践！哲学 対話」
	9月28日	ふりかえり！得たこと・これからに残された課題